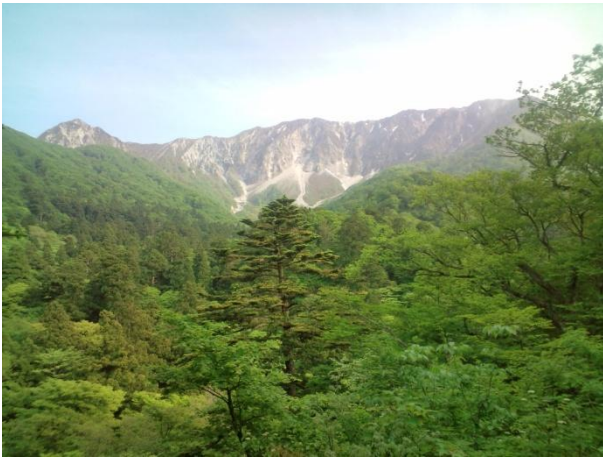


大山の森だより

2017年
夏号

「大山に夏がやってきた！」

初夏なのにハルゼミ？



5月の連休を過ぎ、ブナのやわらかな新緑がひととき鮮やかに輝くころ、大山では初夏を告げるハルゼミが鳴きだします。季節的には初夏なのですが、旧暦の春の終わりから鳴きだすのでハルゼミといえます。

大山には松林に多く生息するハルゼミと、ブナ林に生息するエゾハルゼミの2種類のハルゼミがいます。

※右写真はエゾハルゼミ



ハルゼミの鳴き声は「ジーワ ジーワ ジー」。エゾハルゼミの鳴き声は「オーシー オーシー シャワワワワ」です。標高800メートル付近の赤松とブナが混ざる森では両方の鳴き声が楽しめます。

春期 自然ふれあい事業 活動報告

鏡ヶ成山開き・擬宝珠山登山

(4/28)



今年は雪解けが遅く、カタクリの開花がイベントに間に合わないかと心配されましたが、暖かな陽光の下で可憐な花を観察することができました。

大山春の花観察会

(5/13)



14名の方が大山寺阿弥陀堂の付近に咲く花々を観察しました。千葉や奈良、広島など遠方からも参加者がありました。

大山寺春祭り 大山古道「坊領道」ウォーク

(5/24)

「坊領道」は、大山寺に向かう古道の一つ。大山を望む里の道、地蔵が並ぶ森の道を歩きました。大山寺到着後は、御輿行幸を楽しみました。



大山野鳥観察会

(6/10)

日本野鳥の会鳥取県支部の協力のもと、大山寺周辺の森で野鳥観察会を開催しました。オオルリやキビタキなど18種類の野鳥が確認できました。



■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。
予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。
裏面にイベント情報を掲載しています。

特集：旅するチョウ「アサギマダラ」



6月、榑水高原や鏡ヶ成、大山スキー場といった大山の標高の高い草原で、黒・茶色の地に浅葱色(青緑色)の斑が入った大型の美しい蝶が見られるようになります。これが旅する蝶として知られるアサギマダラです。

春に南西諸島から北上し、夏には北海道南部に到達、そして秋には再び南西諸島に向けて南下します。一部は台湾や大陸まで渡るチョウもいるようです。長年にわたる移動調査により、2000キロにもわたる旅をした個体も確認されています。

大山では、6月～7月初旬、9月～10月初旬に多く見られます。特に草原に生えるヒヨドリバナの仲間に集まる姿がよく観察されます。ヒヨドリバナにはピロリジンアルカロイドという毒性の物質を含み、アサギマダラはそれを体に取り込むことで天敵である鳥に食べられないようにしています。(左上写真は、ヨツバヒヨドリの茎から液を吸うアサギマダラの群れ) また幼虫もアルカロイドを含むカガイモ科の植物(キジョラン、イケマなど)を食草にしており、体に毒をため込みます。

成虫は羽化してから4～5か月ほど生きますが、暑さ寒さに弱いので適温24度前後の場所を求めて移動しながら暮らしています。それが壮大な旅をする理由のようです。幼虫や卵は関東以西の暖かいところでなら冬を越しますので、初夏に大山で見られる個体全部が南西諸島から飛来するわけではないようです。



(イラスト地図 産経新聞05年10月30日から転用)



大山では初夏に長崎県五島列島でマーキングされた個体(左写真)、秋に長野県でマーキングされた個体を確認しました。中国地方はあまりアサギマダラの移動調査がされていない地域でしたが、今年から調査に参加することにしました。捕獲した個体の羽にマーキングし、大山からどこに向かうのか調べたいと思っています。

ふわふわと優雅に舞うアサギマダラから、彼らの旅を想像するのも楽しいと思えますよ。

アサギマダラが集まる植物

ヒヨドリバナ

榑水高原の森は旅する蝶「アサギマダラ」の群れが見られる知られざる名所。足元から大型の青い蝶がフワフワと舞い立つ様は圧巻です。アサギマダラが集まる理由は、草原や森の小道のあちこちで生育するヒヨドリバナの存在です。榑水高原には、葉が対生のヒヨドリバナと4枚の葉が輪生するヨツバヒヨドリの2種類のヒヨドリバナが生えています。名前の由来はヒヨドリが鳴くころに花が咲くことから付けられたという説がありますが、ヒヨドリがよく鳴くのは晩秋から冬なので、由来は不明。薄紫から白の小花を集めて咲く姿は、大山に夏の終わりを知らせます。



「大山周辺での出来事」

2017年4月1日～2017年6月15日

大山春の一斉清掃

(4/16)



大山寺博労座駐車場に490名のボランティアが参加。大山全体で700名のボランティアが大山の清掃に汗を流しました。秋の一斉清掃は10月15日です。

出雲國神仏霊場合同祭事

(5/21)



大山開山1300年祭の開白法要に合わせ、出雲伯耆の20社寺の神職僧侶が大山寺に集まり、13回目となる世界平和祈願祭が執り行われました。

鳥取・島根の両知事も出席。

大山寺春祭り「御輿行幸」

(5/24)

春の例大祭には2台の御輿と稚児行列が大山寺の集落を練り歩きます。きらびやかな時代絵巻にたくさんの観光客が魅了されていました。



大山夏山開き祭

(6/3・4)

今年の夏山開き祭は両日も好天に恵まれ、多くの参加者が大山の登山シーズンの幕開けを祝いました。前夜祭のたいまつ行列には2000名以上が参加。







◎大山のずるい鳥たち

托卵

～わが子のことは人任せ～

ブナの森から「カッコウ」の声が聞こえだすと、大山に夏が来たことを強く感じます。

カッコウの仲間は4種類、すべて他の鳥類の巣に卵を産んで育てさせる托卵という習性をもつ鳥です。大山では全種類が5月ごろに渡ってきます。どれも特徴的な鳴き声の鳥ですから、声が聞こえたらあたりを探してみてください。

 ツツドリ	鳴き声:ポポ ポポ 大きさ:ハトより少し小さい どこから:フィリピンなどから その他:毛虫が好き	托卵先: 主にセンダイムシクイ
 カッコウ	鳴き声:カッコウ カッコウ 大きさ:ハトぐらい どこから:ユーラシア南部から その他:別名は閑古鳥	托卵先: オオヨシキリ、ホオジロ、モズなど
 ジュウイチ	鳴き声:ジュウイチー ジュウイチー … ジュビビビビビ ※飛びながら鳴く 大きさ:ハトより少し小さい どこから:東南アジアから その他:別名は慈悲心鳥 夜も鳴く	托卵先: オオルリ、コルリ、ルリビタキなど
 ホトギス	鳴き声:キョッキョ キョッキョキョッキョ ※飛びながら鳴く 大きさ:ハトより小さい どこから:インド・中国南部などから その他:毛虫が好き 異名がたくさん(不如帰、時鳥、子規など) 夜も鳴く	托卵先: 主にウグイス

ーイベント情報（7月～9月）ー



■自然公園財団のイベント（予定 2017年6月15日現在）

<p>大山の森で小鳥を呼ぼう。 オリジナルの鳥笛とバードコール工作体験 開催日：8月5日(土)13:00～16:00頃 会場：大山下山キャンプ場管理棟 集合場所：大山情報館1F 自然公園財団前 参加費：500円 材料費込</p>	 <p>【内容】鳥のさえずりにそっくりな音が出る笛を作ります。うまくできたら小鳥が集まるかも。自分の作った笛を森で鳴らしてみよう。小学生以下の子どもとその保護者が対象。</p>
<p>大山・秋の花観察会 秋の気配を花で感じる 開催日：9月9日(土)13:00～16:00頃 会場：大山町大山 豪円山スキー場周辺 集合場所：大山情報館1F 自然公園財団前 参加費：1000円</p>	<p>【内容】秋の花を探して大山の豪円山スキー場周辺の草原周を歩きます。花の観察の後はクロモジ茶と世界の蜂蜜試食会。美しいだけではない花の秘密をお伝えします。</p> 
<p>大山・秋の木の実・草の実観察会 植物たちの命の伝え方とは 開催日：9月30日(土)13:00～16:00頃 会場：大山町大山 豪円山クロスカントリーコース(予定) 集合場所：大山情報館1F 自然公園財団前 参加費：1000円</p>	 <p>【内容】木の実・草の実を探して大山の草原・森を散策します。木の実の色や形には、植物たちの命をつなぐ知恵が隠されています。観察の後はクロモジ茶と世界の蜂蜜試食会。</p>

■周辺のイベント

フェスティバル・ティア・マスミス 2017～榎水地蔵尊祭～ 7月22日(土)

大山ますみず高原を会場にした恒例の夏祭りです。約2000発の天空花火大会は大山を大迫力に彩ります。伝統祭事、「地蔵尊祭」、盆踊り、その他楽しいイベントがメジロ押しです。

【問い合わせ】伯耆町商工観光課(0859-68-4211)

大山寺お盆の大献灯 8月11日(金)～15日(火)

日没後から21時30分まで、大山寺参道を絵灯籠やろうそくの柔らかな灯が皆様をお迎えいたします。11日から13日は地元の和傘職人が製作した和傘を参道に並べた灯りの演出あり。

先祖を偲びつつ、幻想的な体験を大山でお楽しみください。

※11～13日(和傘演出あり)、14・15日(和傘演出なし、法要のみ)

【問い合わせ】大山町観光案内所(0859-52-2502)



一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地
 〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33(大山情報館1階)
 TEL: 0859-52-2165 FAX:0859-52-2371
 URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>